のぞいてみよう

ロタコの発掘調査

終戦後六十年余を経て、戦争の記憶は「ひと」から「もの」へと移行しつつある。
戦争を体験した世代が少なくなり、体験者から直接話を聞くことができにくくなってきている現在、戦争遺跡の調査を行ない、そこに残った戦争遺跡という「もの」を客観的に記録し、また遺跡それ自体を次代に残していく意義は年々増加している。

●滑走路

現在でも、御勅使川扇状地上の所々に60数年前動員された人々が造成した滑走路の盛土がそのまま残されている。平成17年度に実施した発掘調査の結果、当時の人々が滑走路両側の土を掘って滑走路に積み上げた様子がわかったほか、土が沈まないように締め固めたような跡も見つかり、当時の人々が行った作業工程を垣間見ることができた。

盛土の様子

調査風景

今も残る滑走路の盛土

●2号掩体壕（えんたいごう）

平成18年度に発掘調査が行なわれた。調査の結果、形や大きさは3号掩体壕とほぼ同じであったが、用いられたコンクリートの質が極めて悪く、中には拳大の石が混ぜられていた場所もあった。

2号掩体壕全景

コンクリート製の基礎

コンクリートに混入していた礫

調査風景

●3号掩体壕（えんたいごう）

平成17年度に発掘調査が行われ、掩体壕の形や大きさ、基礎の作られ方などが記録された。また、掩体壕が半地下式の構造で、底面にはコンクリートの床（スラブ）が打たれていることが明らかになった。

3号掩体壕全景

掩体壕の木製の屋根と基礎はこのようなボルトで連結されていた。

発見されたコンクリートの床

コンクリート製の基礎

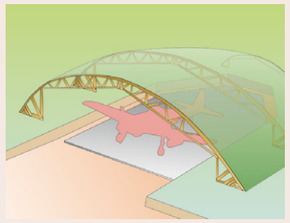
調査風景

用語解説

戦争遺跡（せんそういせき）
戦争のために造られた施設や、戦争で被害を受けた建物などで、現在も残っているもの。かつての戦争の時代を物語る遺物であり、後世に伝えることで歴史の生きた教材になりうる。近年では保存措置が講じられたり、文化財として指定される事例も出ている。（Wikipediaから抜粋）

立川航空廠（たちかわこうくうしょう）
東京の立川飛行場を中心に数多く配された軍直営の軍用機生産施設、試作研究、生産技術の研究等を担った施設群のひとつで、主に航空に関する機材、燃料等の購買、貯蔵、保存及び補給並びに航空に関する機材の廃品処分及び修理を行ったとされる。

掩体壕（えんたいごう）
敵の爆撃などから、飛行機を隠し、格納する施設。地域では一般に掩体壕と呼ばれているが厳密には飛行機用「掩体」が正しい。



松根油（しょうこんゆ）
マツの伐根（切り株）から得られる油状の液体。戦時中石油が枯渇する中、日本では航空ガソリンの原料として使うことが試みられた。

報国農場（ほうこくのうじょう）
食糧増産のため、小学生などを動員して耕作廃止畑、伐戈跡地、河川敷、工場建業予定地の空閑地などを開墾して米、麦、大豆、ジャガイモ、サツマイモなどを栽培した学校直営の農場。南アルプス市の北半分では、芦安・源・飯野・百田・八田・西野の各国民学校により昭和19年の春ころから、御勅使川河川敷が開墾され、イモなどがつくられた。

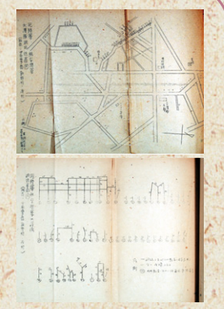
ロタコの記憶 ●ロタコを伝えるさまざまな資料たち

地域にはロタコを伝えるさまざまな資料が残っている。このジョレンやツルハシ、食器などは、ロタコ工事に従事した朝鮮半島出身の軍属、労働者が、終戦後帰国するのに旅費がなくて困り、路銀の足しにと地域の農家に引取りを依頼したもの。出面表は当時動員された地域住民の出勤簿。また、山梨県庁には、いまもロタコに関する図面などが残されている。

ロタコ工事協力隊緊急動員出面表（横小路靖氏提供）

実際のロタコ工事に使用した道具（ツルハシ）

ロタコの施設配置を描いた図面（山梨県蔵）


横穴壕群の位置と規模を示した図面（山梨県蔵）

実際のロタコ工事に使用した道具（ジョレン）

朝鮮人労働者たちが使った食器

●もう少し知りたい方へ――参考文献

・南アルプス市教育委員会2007『ロタコ（御勅使河原飛行場跡）』南アルプス市埋蔵文化財調査報告書第13集
・山梨県戦争遺跡ネットワーク編2000『山梨県の戦争遺跡』山梨日日新聞社
・白根町編1969『白根町誌』
・十菱駿武・菊池実編2002『しらべる戦争遺跡の事典』柏書房
・佐藤弘2005『山梨のアジア太平洋戦争』山梨ふるさと文庫
・平林久枝1982「敗戦前、山梨県白根町に徴用で連行された朝鮮人」『在日朝鮮人史研究』10号

平成20年度埋蔵文化財保存活用整備補助事業
南アルプス市教育委員会　文化財課
☎055-282-7269

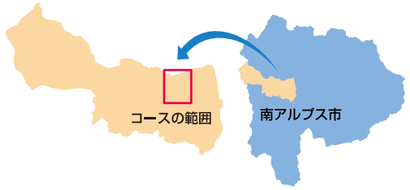
遺跡で散歩

vol.5

MINAMI-ALPS CITY

vol.5

戦争遺跡 ロタコを歩く



●コースあんない　三宮神社～横穴壕～三宮神社まで　距離9.4km／時間約3時間

①三宮神社 → 0.1km 2分 → ②滑走路跡 → 0.5km 9分 → ③誘導路1 → 1.6km 31分 → ④白根源小学校 → 0.5km 9分 → ⑤了円寺 → 1.5km 28分 → ⑥築山の横穴壕跡1 → 0.7km 13分 → ⑦築山の横穴壕跡2 → 1.0km 18分 → ⑧福王寺と横穴壕跡 → 0.3km 5分 → ⑨徳島堰と掩体壕群 → 0.2km 4分 → ⑩ロタコの製材所跡 → 0.5km 6分 → ⑪航空本部跡と兵舎 → 0.6km 11分 → ⑫常楽寺 → 0.5km 9分 → ⑬1・2号掩体壕 → 0.2km 4分 → ⑭3号掩体壕 → 0.2km 4分 → ⑮誘導路2 → 0.4km 8分 → ⑯白根飯野小学校 → 0.6km 11分 → ①三宮神社

●ロタコについて

今から60年あまり前のアジア太平洋戦争末期、旧日本陸軍によって御勅使川扇状地の上（現在の飯野・源地区）にひとつの飛行場がつくられました。

飛行場の名称は「御勅使河原飛行場」といいましたが当時から、もっぱら「ロタコ」という暗号名で呼ばれてきました。

この飛行場は、東京の立川にあった航空廠を疎開させ、敵から隠すための秘密飛行場として計画されたといわれ、大型機が離着陸可能な長さ1,500m、幅100mの滑走路を中心としてさまざまな施設がつくられ、御勅使川扇状地の西側に沿ってそびえる山の斜面には、物資の保管や飛行機の工場にするために数多くの横穴壕が掘られました。

ロタコの遺構は、広大な扇状地上の約800ヘクタールもの範囲に点在し、現在でもその痕跡をいたるところにみつけることができます。

横穴壕群は、現在は全て埋まってしまっています。この崩れやすく危険な横穴壕の掘削には、もっぱら朝鮮半島出身の労働者がかりだされました。

誘導路や滑走路の建設には、釜無川西岸一円から1日3000人が動員されたほか、地域の小学生や旧制甲府中学（現在の甲府一高）の学生も動員されました。重機などない時代、ほとんどが手作業で、みんなとても大変な思いをしました。

①三宮神社

滑走路南端にあり、御勅使川扇状地上の数少ないランドマークとして、建設工事に動員された地域住民や学生の集合場所のひとつとなっていた。

②滑走路跡

冬に吹き下ろす「八ヶ岳颪（やつがたけおろし）を考え、八ヶ岳にむかって設計された幅100m、長さ1500mの滑走路。中央に設けられた誘導路は、今でも農道として利用されている。

③誘導路 1

ロタコ工事の際に作られた飛行機の誘導路のひとつ。戦後も「便利なので」そのまま農道として使われている。

④白根源小学校

子どもたちが滑走路に敷き詰めて偽装するための木の枝の採集や、松根油を造る松の根っこの採取などに動員された。

⑤了円寺

徳島堰を作った徳島兵左衛門ゆかりのお寺。兵左衛門のお墓もある。当時このお堂にも朝鮮人労働者が寝泊りしていた。

⑥築山の横穴壕跡 1

現在も山の斜面のところどころが陥没している。

⑦築山の横穴壕跡 2

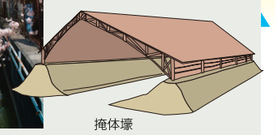
陥没跡の反対側には横穴壕を掘る際に、掘り出された土の形がそのまま残っている。

⑧福王寺と横穴壕跡

横穴壕の近くにある福王寺の過去帳には、ロタコ工事で無くなった朝鮮半島出身者の名前ものこっているという。

⑨徳島堰と掩体壕群

江戸の商人徳島兵左衛門が考案し工事に取りかかり、後に有野の矢崎又右衛門が寛文10年（1670）に完成させた用水路。御勅使川扇状地上の旱魃地帯を潤した。終戦間際には、この徳島堰の堤防に沿って、1～3号掩体壕などとは異なるこのような形の掩体壕が並んでいた。



⑩ロタコの製材所跡

ここで、ロタコ工事で使われる木材を一手に製材していた。現在は工場となりその面影はない。

⑪航空本部跡と兵舎

このあたりに航空本部が置かれた。現在その面影は殆どないが、本部敷地内にあった温室が兵舎に転用され、戦後温室にもどされて、現在まで残っている。

⑫常楽寺

飯野小学校が接収されたため、子どもたちは、机にするミカンバコを持ち寄って、このお寺で勉強したこともあったという。本尊の阿弥陀如来立像は県指定文化財。

⑬1・2号掩体壕

畑の中に残る掩体壕の跡。2号掩体壕は平成18年に発掘調査が行なわれた。

⑭3号掩体壕

平成17年にはじめて発掘調査がおこなわれた。

⑮誘導路 2

南半分は地域の人々が常楽寺にむかう「オテラミチ」を拡幅。北半分は、ロタコ工事に際して新設された。新設部分は戦後畑にもどされた。

⑯白根飯野小学校

校舎が陸軍に接収されたほか、高等科の子どもたちは、男子は木工所、女子は製糸場に勤労動員された。校内には、学徒動員の記念碑がある。

ここに掲載した見学ポイントの多くは私有地です。土地への立ち入りについては、あらかじめ了解を得るなど充分注意してください。